

緑のセンターだより

NO.124 平成21年7月1日発行

発行元: (財)札幌市公園緑化協会 豊平公園緑のセンター

リョウブ

Clethra barvinervis

リョウブ科 リョウブ属

リョウブは漢字で「令法」と書き、北海道南部から九州、韓国に分布する落葉中高木です。リョウブ属は世界では64種ほどが確認されていますが、我が国では科1属1種の仲間の少ない寂しい植物と見られています。原産地東アジアやアメリカ大陸では30~40種が確認されており、いわれるほど孤独ではないのですが、日本ではリョウブ(*C. barvinervis*) 1種のみであるため孤独種といわれるのでしょう。

リョウブの成木は7~8mまでに伸長します。希に道央地域などで植栽された株を見かけますが(豊平公園内にも花木園の片隅に小さな個体が1株あります)、樹高はせいぜい3~4m程度と低木状態にとどまり、生育環境の限界を示唆するものではないでしょうか。

道南地方に自生するリョウブは5~6mほどに伸長して雑木林の中にひっそり生息しています。背の高いマツ類やカシワ、ナラ、ニレなどに守られるようにして立っていますが、これには事情があります。リョウブの根は地表面に広がる浅根性の樹木ですから強風などから身を守る手段として、高い木の中に紛れるように生息しているのです。それゆえ、何かの事情で周り的高木類が取り除かれるようなことになれば、いきなり強風にあおられ倒れてしまいます。直根を深く発達させるマツやコナラなどではとても考えられないほどあっけなく倒れてしまうのです。ようやく棲息地を確保したリョウブも、高木伐採によって庇護を失うと、ささいな風で傾いたり倒れてしまいます。リョウブ達が自然の山林で生き延びるのはやはり厳しいノルマがあるのでしょうか。

植物の生存競争の中で、種が生き残っていくシステムは様々です。リョウブのように厳しい生存競争の中で生き残りが危ぶまれる植物は、危急の対策として休眠させていた不定芽の再生という手段で生存し続けます。植物は分けつして株そのものが再生したり、種子を飛ばして繁殖し種を存続させます。リョウブは種子繁殖もしますが、休眠した不定芽が、母体が倒れると直ちに覚醒して列をなして発芽するのです。同様の再生法を見せるのがカラマツで、山道を歩いていると妙に整列したカラマツの幼樹を見かけます。リョウブに見る不定芽の発芽と同様で、二次林でよく見かける光景です。

本州で自生木のある地方では、若芽を摘んで炊き込みご飯などに供するようですが、リョウブは摘み取られても再生力が強いので切り下の不定芽が2週間くらいで出てきます。低木の状態で再生力の強さで生き抜く有様はツツジの仲間にも見られる生命力でしょうか。そういえば、ツツジ科とリョウブの類縁関係も検証されているようです。(T.K.)



リョウブ

山里や旅にあれば令 法めし 塘 雨

7月の園芸

このコーナーの園芸作業は札幌地方での目安です。
ここに掲載した以外の作業もたくさんありますので、
ご不明な点は緑の相談までお気軽にお問い合わせください。

緑の相談受付 10:00～12:00、13:00～16:00

☆豊平公園 811-9370 月曜以外毎日

☆百合が原公園 772-3511 木曜、日曜

☆平岡樹芸センター 883-2891 水曜、土曜

◆果菜類の追肥

果菜類はこの時期から果実の肥大充実が旺盛になり養分の吸収が多くなります。元肥で普通の化成肥料を使っている場合は、肥料切れを起こしやすくなりますので、追肥が必要になります。以下の事例を参考にして施してください(化成肥料8-8-8の場合)。時期が来ても生育が旺盛でしたら追肥の必要はありません。

作物	追肥時期	施肥量(目安)/1株
キュウリ	収穫始めと、以後20日毎	大さじ山盛り3杯
ナス	以後30日毎	大さじ軽く1杯
ピーマン	〃	大さじすりきり3杯
カボチャ	着果揃い後(ソフトボール大)	紙コップ6分目
スイカ	〃	紙コップ7分目
トウモロコシ	本葉4～5枚期	大さじ山盛り1杯

カボチャ、スイカはつる先に、他は株間や畝間全体に肥料を散布し、軽く土と混ぜます。雨上がり等の土壌水分のある時が効果的です。追肥後、水分が不足気味の時は灌水すると効果的です。

【 トマト 】

大玉系では1～3段果房の2～3番果がピンポン玉大の頃、1株当たり大さじ山盛り1杯を施します。特に桃太郎系は肥料切れになると、回復に時間を要しますので注意が必要です。

ミディ、ミニ系は初期生育が旺盛なので3段花房開花期から各花房開花期ごとに1株当たり大さじ軽く1杯を施します(3～5段まで)。

◆夏まきのハウレンソウ

ハウレンソウは生育適温が15～20℃、比較的冷涼な気温を好む作物なので、夏の高い気温は苦手です。種子を購入する際に絵袋の説明をよく読み、夏に適した品種を選びましょう。

【 まく時の注意 ① 】

種子は10～12時間、水に漬けて(流水はなお良し)十分給水させておくと発芽が良くなります。この間に2～3回水を入れ替えて酸素の供給を図ります。水に漬ける時間が長すぎると酸欠で発芽が悪くなりますので注意しましょう。種まき時にペーパータオルなどで水切りをしておくと作業がしやすくなります。

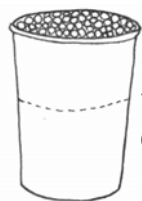
【 まく時の注意 ② 】

種まき前日に床土に十分に灌水しておくことがポイントです。土が乾燥していると種子から水分を奪い、発芽障害を招きます。種まき後は乾燥状態をみて灌水しますが、頻繁に過ぎると立ち枯れ病等の発生の恐れがありますので注意してください。

★ 化成肥料の分量の目安 ★

庭の草花や家庭菜園に肥料を施す場合、有機肥料は多少多めに入れてもあまり支障はありませんが、化成肥料を一度に多く施すと肥料やけを起こすことがありますので気をつけましょう。計量するものが身近にあればよいのですが、無い場合には次のようなものを目安にすると便利です。

すりきり 200g



180mlの紙コップ

高さの
6分目 100g

すりきり 4g



山盛り 8g



小さじ(ティースプーン程度)

すりきり 8g



山盛り 16g



大さじ(カレースプーン程度)



軽く一握り

男性 40g

女性 25g

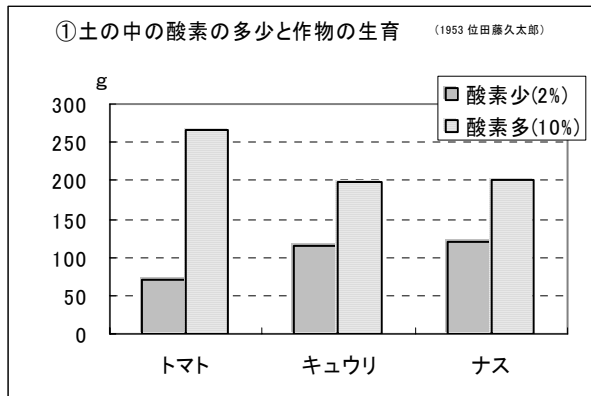
◆根の健康

植物が健康に育つためには、葉が日光に十分に当たることと、根が順調に生育することが必要です。

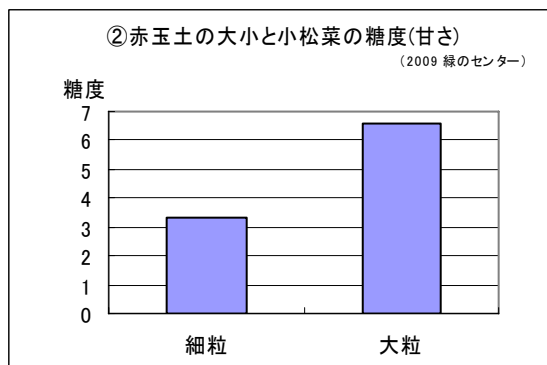
根が順調に生育する条件は土の中に、①酸素がある、②水分がある、③温度がある、④土壌のpH(酸度)が適切、⑤肥料分がある、⑥病害虫が無い、などです。(このことを多くの参考書は「通気性(又は、水はけ)が良く、水持ちが良く、肥沃な土壌」と表現しています。)

ここの「通気性」「水はけ」は、根が呼吸できる十分な酸素が供給される土づくりを求めています。

今回は、土の中の酸素について考えてみます。



① 土の中に酸素が多い時と少ない時では、作物の生育が大きく異なります。トマトでは4倍近くも生育に差が出ます。



② コマツナでは空気が良く流れる大粒の赤玉土で栽培した物と、篩(フルイ)に掛け下に落ちた細粒の赤玉土ではコマツナの甘さが倍も違います。

土を柔らかくし、根に十分な酸素を与える事を心がけると、根にストレスが少なくなり美味しい野菜をたくさん収穫することが出来ます。

病害虫を知ろう! Part4 ベと病 の巻

べと病(露菌病) (Pseudoperonosporaなど)

《 症状と診断 》

野菜、草花、果樹などに発生しますが、特に野菜に多い病気です。主に葉に発生しますが、最初は葉の表側に葉脈に区切られた角形で黄色から褐色になる斑点ができます。そしてその裏側には白色から淡灰色や淡紫色でビロード状のカビが密生するのが特徴です。斑点が多くなると葉の一部または全部が黄化し、ついには葉が枯れます。被害が著しいと株の生育が悪くなります。発病の程度がひどくなると一部の野菜や果樹などでは花蕾、果実、根などにも発病します。この病原菌は生きた細胞からだけ栄養を吸収し、死んだ細胞では生きられません。また、キュウリなどのウリ科の野菜とハクサイなどアブラナ科の野菜とでは寄生する菌の種類が異なります。

《 発生の環境 》

春と秋に発生しますが、普通は本葉が5~6枚以上に生育した頃から、下葉から発病します。曇天や雨天が続いて湿度が高くなると多発しやすくなり、発病適温は20~24℃です。キュウリ葉上に形成された分生胞子は風にのって周囲に飛散します。キュウリに達した分生胞子は水滴があればすぐに遊走子を出し、遊走子は発芽して気孔から侵入し、病斑を形成します。

前年発病した場所や、土がいつも湿り気味になる場所で栽培すると発病しやすくなります。

種子の厚まきで苗が徒長したり、肥料不足や肥料過多によって植物が軟弱に生育したりすると発病しやすくなります。

《 防除法 》

- 前年の発病地や土が湿っている場所では栽培しない。
- 種子は適正な時期に適正量をまく。
- 肥料不足や過多にならないようにする。
- 雨などで泥と一緒に病原菌が跳ね上がるのを防ぐために、わらやプラスチックフィルムなどのマルチを施す。
- 毎年、発生し始める時期の直前から予防的に散布を始めると高い効果が得られます。

オーソサイド水和剤 80 (600 倍:カボチャ、キュウリ、スイカ等のべと病)、サンボルドー (300~600 倍:キュウリ、ダイコン、キャベツ等のべと病)、ダコニール 1000 (1000 倍:カボチャ、キュウリ、キャベツ、タマネギ、ハクサイ、レタス等のべと病)

7月～8月上旬の催しのお知らせ

豊平公園緑のセンター 豊平区豊平5条13丁目 TEL 011-811-6568

内容	日	時間	申込受付開始日	費用・備考
園芸教室				
果樹などの夏の病害虫防除	7月5日（日）	13:30	6月11日～	無料
竹垣を作ろう！	7月12日（日）	10:00	〃	材料実費
洋ランの夏の栽培方法	7月12日（日）	13:30	〃	無料
秋野菜の種まきと管理	7月20日（月）	〃	7月11日～	無料
展示会				
あけび・籐 作品展　ー自然からの贈り物ー	7/7（火）～12（日）		協力：あけびつる工房 Rasen	入場 無料
スイレンとハイビスカス展	7/28（火）～8/9（日）			
クラフト講習会				
あけび工房 あけびの吊りかご	7月8日（水）	10:00	6月11日～	2,000 円
現代押花アート ポストカード	7月15日（水）	10:00	7月11日～	1,000 円
園内自然観察会				
夏の観察会	7月5日（日）	10:00	6月11日～	保険代 100 円
その他				
夏休み企画 ネイチャークラフトフェスティバル	7月30日（木） 7月31日（金）	公園で剪定した木の枝などを使って楽しい工作に挑戦！ 参加費：100 円（保険料）		

百合が原緑のセンター 北区百合が原公園210 TEL 011-772-3511 <http://www.sapporo-park.or.jp/yuri/>

園芸教室	日	時間	申込受付開始	参加費
ラベンダーなどハーブの育て方	7月5日(日)	13:30	6月11日～	130円
百合が原園内ツアー	7/7(火)、14(火)、 21(火)	13:30	6月11日～ 7月11日～	130円
バラの花後管理	7月12日(日)	13:30	6月11日～	130円
ぼくらの自由研究 植物で作るおもちゃ	7月28日(火)	10:30	7月11日～	300円
展示会		日	料金	
ゆり月間	7/1(土)～26(日)		入館料 130円	
こども植物展	7/28(火)～8/16(日)		〃	

平岡樹芸センター 清田区平岡4条3丁目 TEL 011-883-2891

講習会	内容	日	時間	申込開始	費用・備考
生垣の維持		7月5日(日)	10:00	6月11日～	300円
マツ類の整枝剪定		7月18日(土)	10:00 13:30	7月11日～	〃
オンコの整姿剪定		8月23日(日)	10:00 13:30	8月11日～	〃

その他の公園

イベント	内容	日	会場	問い合わせ
さっぽろ夏まつり		7/21(火)～8/20(木)	大通公園	さっぽろ夏まつり実行委員会 211-2376
公開さかな調査		8月2日(日)	豊平川さけ科学館	豊平川さけ科学館 582-7555
夏休みクラフト教室		8月4日(火)	西岡公園	西岡公園 582-0050

豊平公園 緑のセンター 公式ウェブサイト <http://www.sapporo-park.or.jp/toyohira/>

※「緑のセンターだより」バックナンバー公開中 ※